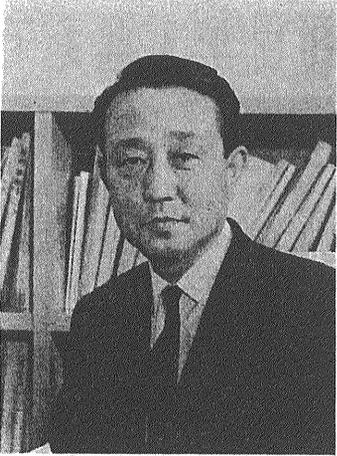


地質調査所北海道支所創立20周年に際して



地質調査所長 佐藤光之助

地質調査所北海道支所が札幌市に開設されたのは昭和23年8月1日である。

終戦後の経済復興には、地下資源の開発が緊急課題として取りあげられたが、とくに北海道においては、燃料資源、鉱物資源などについて期待されるところが大きかった。このような情勢に応じて、従来から存在していた北海道工業試験場の地質調査部門が地質調査所に移管され、さらに人員、設備が增強され、地質調査所北海道支所として発足し、北海道の地質調査研究を積極化することが行なわれた。その後北海道開発庁が新設されるに伴い、北海道開発の一環として、地質・地下資源に関する調査の促進がはかられたが、地質調査所北海道支所もこれに協力し、各種の調査研究を実施してきた。

創立以来今日までに、20年の歳月を経過してきた北海道支所は、地質調査所の北海道における機関とし、地質地下資源の総合的、基礎的調査研究、地殻資料の収集整備、編集、技術指導および相談業務を通じて、北海道経済の発展、福祉の向上に寄与すべく努力を重ねているところである。

ところで、最近、地質学関連の科学技術の発展は著しいものがある。地質学、地球物理学、地球化学などが著しい発展をするとともに、相互の学問の融合が行なわれ、新しい地球科学としての体系を作りつつあるのが現状である。これに伴う技術的発展、すなわち、地質

地質調査所長 佐藤光之助

に関する各種計測技術、物理探査、地化学探査、試錐などの発達によって、地質調査事業の面において、著しい進展がみられるようになりつつある。すなわち、新しい学問技術が新しい地質調査の面を作りつつあるのである。

一方、北海道においては、地下資源の開発、国土の利用保全は重要な課題であるが、これらの基盤となるものとして、地質調査の果たすべき役割りは大きい。今後はさらに、その重要性が増大していくものと考えられる。すなわち、最近の地下資源開発は地下深部さらに海域へと拡大しており、その基礎となる地質調査も、新しい学問、技術の導入とともに、その規模の拡大にせまられているのが現状であろう。また、資源そのものについても、既成の概念をこえ、新しい資源の開発利用も問題となって来るであろう。このような新分野への地質調査の貢献も期待されるのである。土木建設、防災などの分野における地質調査の役割りについても、次第にその重要性の認識が高まりつつある。

このような情勢のなかにあつて、北海道支所は多方面の分野におたる課題を抱えているのである。その規模に制約のある北海道支所としては、これらの問題に如何に対処していくかが、今後の重要な課題であろう。そのためには、まず、新しい地学に関する実験装置および野外調査技術の整備を基として、北海道支所として特色ある調査研究課題にとりくむこと、および、北海道に関する地殻資料の収集整備、編さんなどを行なうことである。これらを通じ、調査研究成果および専門的知識を背景として、社会に寄与することに努めるべきであろう。地質関連の科学技術の発展が、北海道開発の大事業に多少なりとも貢献し得ることを念じている次第である。

地質調査所北海道支所が創立20周年を迎え、今日の状態にまでに育ったことについては、関係官庁、大学、会社、団体のご協力に負うところが大きく、ここに深く謝意を表わすとともに、今後の目標に向かって発展するためには、さらに一層のご支援をたまり度く、お願いする次第である。